

令和 6 年度

第 2 期遊佐町総合戦略

外部評価事業チェックシート
(全59事業中12事業)

令和7年2月26日ヒアリング実施

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名		I－1 地域資源を生かした雇用の創出と後継者育成			担当課係	産業課 水産林業係
事業名		事業③ あわび陸上養殖事業			事業区分	継続
事業目的		アワビの養殖事業を実施し、新たな産業の創出と、特産品の開発を行う。				
事業概要		漁村センター敷地内において生産されるアワビを販売し、新たな地場産業とすべく、安定的な生産出荷を行う。				
指標項目		出荷個数				
目標数値 (根拠等)		出荷個数 50,000個/年				
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	R2	7,000個	2,192個	31.30%	各種イベント・ふるさと納税返礼品、町内宿泊施設gotoキャンペーンに提供
	目標と成果	R3	30,000個	664個	2.21%	遊楽里への販売、ふるさと納税返礼品、加工品開発に向けサンプルとしての提供
		R4	50,000個	1,688個	3.38%	庄内総合支庁職員・遊楽里・ふらっと・丸魚・ビストロへの販売、食の都庄内への提供
		R5	50,000個	1,070個	2.14%	「ふらっと」へ卸売り
		R6	50,000個	1,478個	2.30%	「ふらっと」へ卸売り 12月末現在
		R7	50,000個			
	事業成果を 上げるための 工夫や留意点		今年度から養殖事業として、3カ年事業計画に基づき、民間委託業者、遊佐町総合交流促進施設株式会社と連携し取り組んでいる。常時、飼育状況を情報共有しながら、販売の促進、アワビ料理を振る舞うイベントの企画等、鳥海あわびのPR活動に努めている。			
来年度以降 の改善点		引き続き、現体制により生産性の向上、販売体制の強化、鳥海あわびのブランド化の強化に取り組む。斃死の対策をしながら、販売に必要な個数の確保に努め、新たな事業展開に備える。地域経済への波及効果を検証しながら、事業の方向性を示していきたい。				
外部評価委員 会からの意見		積み上げてきた技術で、遊佐のブランド化に向け、引き続き務めていただきたい。				

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名	Ⅱ－2 遊佐が好きになる、住みたくなる情報の発信と定住就労支援	担当課係	産業課 産業創造係			
事業名	事業⑦ 若者を中心としたビジネス創出事業	事業区分	新規			
事業目的	産業現場での人手不足と承継者不足を克服するため、地元企業の魅力を発信し、若者の地元回帰と若者が町に住んで働くための環境整備を図る。					
事業概要	①町出身者の地元回帰につながる創業・就業支援 ②学生時から地元の企業や仕事を学ぶ機会の創出 ③オンラインでの町内企業情報と魅力発信 ④学生のビジネスチャレンジ(ビジネス講座)による地元の起業家育成 ⑤サテライトオフィス、貸オフィス等の若者ビジネス拠点の整備					
指標項目	①移住・定住希望者の就業相談件数②インターンシップの受入人数③ビジネスチャレンジの参加者数					
目標数値 (根拠等)	①移住・定住希望者の就業相談件数 100件②インターンシップの受入人数 30人 ③ビジネスチャレンジの参加者数 30人					
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備考
	基準値	R2	-			
	目標と成果	R3	-			
		R4	-			
		R5	①100件②20人 ③30人	①50件②19人 ③20人	①50%②95% ③66%	
		R6	①100件②20人 ③30人	①50件② 25人 ③15人	①50%② 125% ③50%	①③は年度末までの見込数 ②は確定数
		R7	①100件② 30人 ③30人			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点	遊佐高校デュアル実践の改善、地域課題解決型大学生インターンシップ、空き店舗利活用促進事業を行った。デュアル実践は社会人としてのマナー講座、産業心理カウンセラーによるメンタル面での支援、派遣時の高校生の反省課題のフィードバックを行った。地域課題解決型大学生インターンシップはしらい自然館を拠点に「観光」をテーマに、3つの実証プログラムを展開した。空き店舗利活用促進事業はエルパを拠点に高校生・大学生向けのセミナーを開催した。					
来年度以降 の改善点	遊佐高校デュアル実践は、R7を最終年度として過去2年間の改善点を整理し、今後10年間の存続につながる取り組みを構築する。地域課題解決型大学生インターンシップ事業は夏から秋にかけて、遊佐ブランド推進をテーマとしたインターンシップを実施する。空き店舗利活用支援事業は若者の創業を伴走支援し、地域課題解決型のビジネスモデルを多く生み出していく。					
外部評価委員 会からの意見	計画的に進めていただきたい。					

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名		Ⅲ-1 出産・子育てにおける切れ目のない環境整備			担当課係	健康福祉課 健康支援係
事業名		事業③ 若年者健診(わかば健診)			事業区分	継続
事業目的		若年期からの生活習慣病の予防				
事業概要		20～39歳までの若年者で職場等で健診受診のない者を対象に健診の機会を提供する。				
指標項目		若年者健診を受診した者／職場等で健診の受診機会のない者				
目標数値 (根拠等)		38%(令和2～6年平均) ※平成27～31年平均は36.0%				
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	H27～ R1	35%以上	36.0%	102.9%	
	目標と成果	R3	38%以上	35.7%	93.9%	R3成果数値:131人/367人 ※R2成果数値 38.6%
		R4	38%以上	35.0%	92.1%	R4成果数値:136人/389人
		R5	38%以上	39.7%	104.6%	R5成果数値:126人/317人
		R6	38%以上	38.9%	102.30%	R6成果数値:129人/332人 (R2～6年平均37.6%)
		R7	38%以上			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点		・受診勧奨ポスター、チラシを町内の店舗と公共施設に設置した。令和6年度は協力店舗・施設数を11⇒20に増やすことができた。 ・乳幼児健診時に保護者として来所した対象者へのチラシ配布、各地区の行事でのチラシとポケットティッシュを配布し受診勧奨を実施した。				
来年度以降 の改善点		・引き続き、受診勧奨ポスター、チラシを町内の店舗、公共施設に設置すると共に、協力先を募っていく。 ・健診のメリットを伝える等のPRを対象者が参加する各種イベントの場で啓発していく。 ・健診日程や会場の調整など、受けやすい体制づくりを行っていく。				
外部評価委員会からの意見		これからも健診に必要な体制づくりを進めていただきたい。				

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名		Ⅲ-1 出産・子育てにおける切れ目のない環境整備			担当課係	健康福祉課 健康支援係
事業名		事業④ 子どものインフルエンザワクチン接種費用 一部助成事業			事業区分	継続
事業目的		子育て世帯の経済的負担の軽減				
事業概要		・インフルエンザワクチンの接種費用の一部(1回につき1,700円)を助成する。 ・対象者:町内に住所を有する生後6カ月から高校3年生に相当する年齢までの者。 ・対象者にハガキ案内				
指標項目		対象者に対するワクチン接種率				
目標数値 (根拠等)		50%以上				
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	R2	50%以上	66.1%	132.2%	接種者数1046人／対象者数1583人＝66.1%(R3.1.27現在)
	目標と成果	R3	50%以上	54.3%	108.6%	接種者数821人／対象者数1,513人＝54.3%(R4.2.21現在)
		R4	50%以上	46.0%	92.0%	接種者数672人／対象者数1,461人＝46.0%(R5.2.16現在)
		R5	50%以上	45.4%	90.8%	接種者数638人／対象者数1,406人＝45.4%(R6.1.30現在)
		R6	50%以上	42.5%	85.0%	接種者数568人/対象者数1,388人＝42.5%(R7.2.6現在)
		R7	50%以上			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点		広報・HP・LINE・個人通知により事業周知を行った。また、新型コロナ・高齢者インフルエンザワクチンの定期接種の期間延長に伴い、本事業の接種期間も延長し、希望する町民がインフルエンザワクチンを接種できる体制づくりを行った。接種率の減少に関しては、令和6年秋冬にかけて季節性インフルエンザが猛威をふるい、接種期間に感染した児童が接種を控えた可能性が考えられる。				
来年度以降 の改善点		事業周知が図られていることから、来年度はハガキによる個別通知を廃止し、広報、HP、LINEでの周知を行っていく。接種体制については近隣市町の動向に合わせ、費用助成の期間延長等について検討していく。				
外部評価委員 会からの意見		いろいろな媒体での周知に努めていただきたい。				

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名		IV-3 自主的な町民参加によるまちづくりの推進			担当課係	総務課 財政係
事業名		事業④ 公共施設等総合管理計画推進事業			事業区分	継続
事業目的		将来負担の改善に努めながら、将来にわたる持続可能な財政運営をめざす。				
事業概要		町内公共施設等の適正配置及び有効活用の推進を図る。				
指標項目		将来負担比率				
目標数値 (根拠等)		80%台維持				
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	R2	80%台	69.6	87%	
	目標と成果	R3	80%台	60.8	76%	
		R4	80%台	61.4	77%	
		R5	80%台	38.4	48%	
		R6	80%台	80.0	100%	成果数値は見込値
		R7	80%台			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点		令和6年7月25日大雨災害の被害に対応する災害復旧事業により、例年と比較し歳出、地方債借入が増額となったが、公共施設等の維持補修や長寿命化については、優先度を考慮しながら補正予算計上を行った。令和7年度当初予算においては、計画的・効果的な維持補修の実施による支出の抑制を図るとともに、国・県の補助等町債以外の財源の確保に努めた。				
来年度以降 の改善点		災害復旧事業の財源として例年以上の地方債借入を行ったことから、今後の将来負担比率の上昇が見込まれる。公共施設等維持管理及び更新にあたっては、令和7年度策定予定の新計画に基づき、維持管理等の事業費精査、補助金等の特定財源の確保を行い地方債の抑制に取り組みながら、引き続き自主財源となる各種基金の積み増しを図る。				
外部評価委員 会からの意見		厳しい財政の中にも、将来を見据えて、計画的に実行していただきたい。				

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名	Ⅲ-1 出産・子育てにおける切れ目のない環境整備	担当課係	健康福祉課 子育て支援係			
事業名	事業⑪ ゆざっ子誕生祝金事業	事業区分	継続			
事業目的	ゆざっ子誕生祝い金により、安心して子供を生み、健やかに育てる環境を実現する。					
事業概要	第1子・第2子出生時に10万円、第3子以降の出生時に20万円を対象世帯に支給する。					
指標項目	年間出生数					
目標数値 (根拠等)	R6年度出生数 64 (H31年度出生数60)					
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	R1	78	60	76.9%	
	目標と成果	R3	61	42	68.9%	
		R4	62	48	77.4%	
		R5	63	29	46.0%	
		R6	64	32	50.0%	R6成果数値は見込数値
		R7	64			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点	HP、町広報、チラシ等での周知に加え 子育てに関する情報をまとめた「遊佐町子育てガイドブック」を配布し事業の周知に努めた。					
来年度以降 の改善点	引き続き、町民係と健康支援係と連携し対象者に確実に支給することを努める。					
外部評価委員 会からの意見	制度の周知を図り、計画的に実施していただきたい。					

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名	Ⅱ-1 移住定住者支援とアフターケアの充実	担当課係	企画課 定住促進係			
事業名	事業⑥ 地方創生移住支援事業	事業区分	継続			
事業目的	町への移住					
事業概要	県と町、企業が一体となり、人口の社会減少の抑制と地域産業の担い手となる就業者を確保するため、東京23区在住・在勤者を対象に、遊佐町に移住して県に登録された中小企業への就業または地域の課題へ取り組む社会的事業を新たに起業する場合に移住支援金を支給する。					
指標項目	事業を利用した移住者数					
目標数値 (根拠等)	1人／年 (R2における予算措置:1人分)					
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備考
	基準値	R2	1	0	0	
	目標と成果	R3	1	0	0	
		R4	1	0	0	
		R5	1	0	0	
		R6	1	0	0	
		R7	1			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点	移住相談において制度要件を満たす可能性がある対象者には、要件確認と制度の周知を行った。					
来年度以降 の改善点	対象者が限定的ではあるものの、国の制度要件に合わせて適切な見直しを行いながら、引き続き制度の周知を図る。					
外部評価委員 会からの意見	国の制度要件に合わせて適切な見直しを行い、引き続き制度の周知を図り、利用者増につなげていただきたい。					

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名		Ⅱ-1 移住定住者支援とアフターケアの充実			担当課係	企画課 定住促進係
事業名		事業⑧ 移住者生活準備支援事業			事業区分	新規
事業目的		若者・子育て世帯の移住定住の促進				
事業概要		○対象: 転入時に就業していない単身移住者(18歳以上40歳未満)、若者移住世帯(世帯全員が移住者で40歳未満)で、5年間本町在住の意思がある者。 ○内容: 就業するまでの生活支援として、町内事業者で利用可能な商品券を交付。 交付額: 単身@1万円×最長12ヶ月 若者移住世帯@2万円×最長12ヶ月				
指標項目		交付決定後就業した人数				
目標数値 (根拠等)		10人/年				
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	H27～ R2	—			
	目標と成果	R3	—			
		R4	—			
		R5	10	2	20%	交付申請者2名
		R6	10	0	0%	
		R7	—			
	事業成果を 上げるための 工夫や留意点		町民課と連携し、転入時に住民窓口で周知を行った。			
来年度以降 の改善点		定住定着に向けた支援としては、一時的な生活援助ではなく就職・就業支援が重要であり、また条件に該当する若者移住世帯も多くない状況や利用実績等も踏まえ、令和7年度から廃止する。				
外部評価委員 会からの意見		対象となる世帯が少なく、利用実績等も踏まえ、令和7年度から廃止する。				

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名		Ⅳ-3 自主的な町民参加によるまちづくりの推進			担当課係	企画課 企画係
事業名		事業② 地域コミュニティの維持・強化支援事業			事業区分	継続
事業目的		地域課題の解決にむけた多機能型の事業運営を支援する				
事業概要		・地域において多様な社会参加の場をつくり、協働によるまちづくりを推進する。 ・統合新小学校開校に伴う空き校舎等の利活用を検討する。				
指標項目		地域課題解決のための研修会や視察の実施回数、および各地区会議・WS等への職員出席回数				
目標数値 (根拠等)		年間8回				
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	R2	8	1	13%	
	目標と成果	R3	8	14	175%	
		R4	8	17	213%	研修会1、視察1、参加15
		R5	8	14	175%	研修会1、視察2、参加11
		R6	8	9	113%	研修会2、視察1、参加6
		R7	8			
	事業成果を 上げるための 工夫や留意点		空き校舎へのまちセン移転に関して、蕨岡地区では改修内容の検討を、高瀬地区では解体後の 駐車場整備について検討を実施した。8月には、「防災・減災のまちづくり」をテーマに協働のまち づくり研修会を実施し、避難所の運営等学んだ。1月には、事務作業軽減、事業の集客力アップ を目的にまちづくり協議会事務局向けにwebサービスを活用したチラシづくりの研修を行った。			
来年度以降 の改善点		県や庄内支庁の開催する研修会やワークショップに積極的に参加できるよう促したり、事務局の 事務作業を軽減してより事業・イベントに注力できるよう支援を行う。				
外部評価委員 会からの意見		目標値を見直しながら、計画的に事業を実施していただきたい				

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名	Ⅲ-2 結婚の希望をかなえる支援事業の充実				担当課係	企画課 企画係
事業名	事業② 三十路成人式支援事業				事業区分	継続
事業目的	居住地の町内外を問わず、町と自分の繋がりや関係を再認識するための機会とする					
事業概要	遊佐町三十路成人式「でっけど～DECADE～」の開催を支援することで、行政と住民との新しい協働の仕組みづくりや、若者が集う元気な地域づくり、また地域の人材養成を図る。					
指標項目	参加率					
目標数値 (根拠等)	40%					
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	H27～ R1		27%		
	目標と成果	R3	40%	0%	0%	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実行委員会にて中止を決定。
		R4	40%	0%	0%	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実行委員会にて中止を決定。
		R5	40%	33%	83%	120名中40名出席。来賓等を招待した式典は実施せず、縮小して開催。
		R6	40%	34%	85%	110名中37名出席。来賓等を招待した式典は実施せず、縮小して開催。
		R7	40%			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点	三十路成人式実行委員会のメンバーを広報で公募し、役場対象者も合わせた実行委員会を開催した。実行委員が中心となり協議を行い、来賓等と呼ばずに、三十路対象者のみで開催することに決定。早い段階で実行委員会を組織するようにした。					
来年度以降 の改善点	三十路対象者の減少によりイベントの開催の仕方について検討する必要がある。実行委員会を早めに立ち上げ、方向性を検討したい。					
外部評価委員 会からの意見	着実に進めていただきたい。					

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名	V-1 高速交通網を活用した地域の拠点づくりと広域連携の推進				担当課係	企画課 PAT整備推進室
事業名	事業① 遊佐パーキングエリアタウン整備事業				事業区分	継続
事業目的	秋田県から山形県に入る北のゲートウェイとして、地域の活性化や観光振興の拠点を整備し、雇用を確保する。					
事業概要	・日沿道のR8町内全線開通に向け、遊佐鳥海IC付近に道の駅移設を計画している。観光・6次産業化・防災など様々な拠点を整備することで、小さな拠点のネットワーク化を図ろうとするものである。 ・道の駅移転に向けたハード・ソフト両面の整備計画を推進する。					
指標項目	令和8年度開業に向けた工程管理					
目標数値 (根拠等)	道の駅建設工事の着手(R6)					
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	R2	配置計画案作成 現地測量	配置計画案作成 現地測量		遊佐PAT創生拠点整備事業検討業務委託、測量調査業務委託
	目標と成果	R3	用地取得	取付道路設計 用地測量	具体的な数値 設定なし	・取付道路詳細設計委託 ・用地測量委託 ・道の駅基盤整備検討調査委託
		R4	管理運営計画策定	用地取得 整備計画策定 土木基本設計	具体的な数値 設定なし	・事業用地取得 ・整備計画策定(運営手法決定) ・ストックヤード仮置盛土施工 等
		R5	実施設計	建築基本設計 事業者選定 ストックヤード	具体的な数値 設定なし	・建築基本設計 ・管理運営事業者選定(先行型) ・ストックヤード仮置盛土施工 等
		R6	建設工事着手	建築実施設計 土木実施設計 ストックヤード	具体的な数値 設定なし	・建築基本設計 ・土木実施設計 ・ストックヤード仮置盛土施工 等
		R7	建設工事着手			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点	・令和6年度に道路管理者(国土交通省)との一体型整備による道の駅整備が事業化された。駐車場・トイレ整備等、これまで以上に各種調整が重要となっている。					
来年度以降 の改善点	・来年度以降、開業に向け建設工事が本格化する。工程スケジュール、予算確保等の確実な事業実施が求められる。					
外部評価委員 会からの意見	関係機関と連携し、確実に事業を実施していただきたい					

遊佐町総合戦略 事業チェックシート

令和6年度事業

施策名		Ⅲ-1 出産・子育てにおける切れ目のない環境整備			担当課係	地域生活課 管理衛生係
事業名		事業② 都市公園等再整備事業			事業区分	継続
事業目的		既存の都市公園・河川公園のうち、特に老朽化が著しく又は利用率が低下している施設の改良を行う。また、公園整備後は定期的な遊具点検を実施することで、公園利用者の安全を確保する。				
事業概要		・都市公園、河川公園の再整備において、子どもの遊び場として遊具などの施設整備を行う。 ・公園遊具の定期的な点検を実施する。				
指標項目		R2:再整備完了した都市公園・河川公園数 R3以降:4月～11月の期間、毎月点検を実施した公園数				
目標数値 (根拠等)		R2:1公園 R3以降:10公園(毎年)				
年度経過	項目	年度	目標数値	成果数値	達成率	備 考
	基準値	R2	1公園	1公園	100%	R2:下野沢やすらぎ公園整備
	目標と成果	R3	10公園	10公園	100%	遊ぼっと、吹浦児童、白木、ふれあい、中央、月光川、下野沢、中山、升川、菅里の10公園
		R4	10公園	10公園	100%	遊ぼっと、吹浦児童、白木、ふれあい、中央、月光川、下野沢、中山、升川、菅里の10公園
		R5	10公園	10公園	100%	遊ぼっと、吹浦児童、白木、ふれあい、中央、月光川、下野沢、中山、升川、菅里の10公園
		R6	10公園	10公園	100%	遊ぼっと、吹浦児童、白木、ふれあい、中央、月光川、下野沢、中山、升川、菅里の10公園
		R7	10公園			
事業成果を 上げるための 工夫や留意点		令和2年度までで公園の再整備事業は完了しているため、令和3年度より維持管理を行っている。年度当初に専門知識を有する委託者による点検を実施後は、集落等の委託者による日常的な目視点検や道路作業員による毎月の点検を実施。危険箇所等、要対応箇所については適宜修繕による対応を実施した。				
来年度以降 の改善点		各都市公園に設置されている置き型遊具に劣化が見られるため、有資格者による専門的な点検の結果に応じて消耗の激しいものから優先度を設け、重度な劣化につながる前に修繕を行う。				
外部評価委員 会からの意見		引き続き実施していただきたい。				